改訂日　2026 年 04 月 21 日　(第17 版)

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	レグロックス
デザインコード	A1412A
会社名	シンジェンタジャパン株式会社
住所	〒104－6021 東京都中央区晴海 1 丁目 8 番 10 号オフィスタワーX　21 階
担当部門	HSE グループ
電話番号	03－6221－1027
E メールアドレス	SDS-JP@syngenta.com
緊急連絡先	同上
緊急連絡電話番号	日本中毒情報センター 中毒 110 番 一般市民向け受信相談(無料): 大阪 (365 日・24 時間): 072-727-2499 つくば(365 日・24 時間): 029-852-9999 医療機関専用有料電話(Syngenta 負担): 大阪 (365 日・24 時間): 072-726-9923 つくば(365 日・24 時間): 029-851-9999
推奨用途	除草剤
使用上の制限	推奨用途以外の用途に使用する場合は、専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

金属腐食性物質	区分 1
急性毒性(経口)	区分 4
急性毒性(吸入)	区分 3
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1 (中枢神経系, 腎臓) 区分 3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1 (呼吸器, 眼) 区分 2 (消化管)
水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報

H290 金属腐食のおそれ。
H302 飲み込むと有害。
H331 吸入すると有毒。
H335 呼吸器への刺激のおそれ。
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。
H370 臓器（中枢神経系，腎臓）の障害。
H372 長期にわたる、又は反復暴露による臓器（呼吸器，眼）の障害。
H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器（消化管）の障害のおそれ。
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策
P203 使用前に全ての安全説明書を入手し、読み、従うこと。
P234 他の容器に移し替えないこと。
P260 ミスト／蒸気を吸入しないこと。
P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置
P301+P317+P330 飲み込んだ場合：医療処置を受けること。口をすすぐこと。
P304+P340+P311 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し，呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。
P308+P316 ばく露又はばく露の懸念がある場合：救急医療機関に連絡すること。
P318 ばく露またはその懸念がある時、医学的助言を求めること。
P319 気分が悪い時は、医療処置を受けること。
P321 特別な処置が必要である。
P390 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
P391 漏出物を回収すること。

保管
P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405 施錠して保管すること。
P406 耐腐食性／耐腐食性内張りのある耐腐食性容器に保管すること。

廃棄
P501 内容物/容器を都道府県/政令指定都市等の規則に従って廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

知見なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　　混合物

成分

化学名	CAS No.	含有量 (%)	化審法(ENCS)/ 安衛法 (ISHL) 番号
ジクワットジブロミド	85-00-7	32	5-3913

4. 応急措置

一般的アドバイス　緊急連絡先、中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、製品容器、ラベル、安全データシートを手元に用意すること。

吸入した場合　被災者を空気の新鮮な場所に移す。
呼吸が不規則または停止している場合は、人工呼吸を行う。
患者を暖かく安静にしておく。
直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

皮膚に付着した場合　直ちに汚染された衣服を脱がせる。
直ちに多量の水で洗い流す。
皮膚の炎症が続く場合は、医師に連絡すること。
汚染された衣服は再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合　直ちに、最低 15 分間はまぶたの内側も含め、多量の水ですすぐ。
コンタクトレンズをはずす。
直ちに医師の診察を受ける必要がある。

飲み込んだ場合　飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受け、この容器ないしラベルを見せること。無理に吐かせないこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状　口腔内、気管、食道の炎症
胃腸の不快感
下痢
飲み込むと有害。
吸入すると有毒。
呼吸器への刺激のおそれ。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。
臓器 (中枢神経系, 腎臓) の障害。
長期にわたる、又は反復暴露による臓器 (呼吸器, 眼) の障害。
長期にわたる、又は反復ばく露により臓器 (消化管) の障害のおそれ。

医療関係者への情報　活性炭(大人の場合 100g、子どもの場合は体重 1kg につき 2g)か、フーラー土(15%水溶液を大人の場合 1L、子どもの場合は体重 1kg につき 15ml)を投与する。
吸着剤を投与しないで胃洗浄を行っても、臨床上有効性は見られなかった。
眼に入った場合、些細な接触でも重症化することもあり、完治するには時間がかかる。

5. 火災時の措置

消火剤　小規模火災時:　水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用する。

	大規模火災時:　　耐アルコール性泡消火剤、噴霧放水
使ってはならない消火剤	棒状水による消火は、火災が激しくなったり飛び火したりするので、行ってはならない。
特有の危険有害性	可燃性有機成分を含有するため、火災時に有害性物質を含む黒煙が発生するおそれがある(「10. 安定性及び反応性」参照)。 分解生成物へのばく露は健康を害する可能性がある。
有害燃焼副産物	炭素酸化物 窒素酸化物(NOx) 臭素化合物
特有の消火方法	火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止する。 水を噴霧して密閉容器を冷却する。
消火を行う者の保護	完全な保護服と自給式呼吸器を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	「7. 取扱い及び保管上の注意」および「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い必要に応じて保護具を着用する。
環境に対する注意事項	安全を確認してから、漏出または流出防止の措置をとる。 河川または下水システムに排水しない。 製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。
封じ込め、浄化の方法及び機材	漏出物を閉じ込め、不可燃性の吸収剤 (砂、土、珪藻土、バーミキュライト等) を使用して集め、地域/国の規則に従い廃棄するために容器に入れる (「13. 廃棄上の注意」を参照)。 汚染面を十分に浄化する。 洗剤で拭く、溶剤は避ける。 汚染された洗浄水を保管し、処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	火災に対する特別な対策は必要ない。 皮膚や眼への接触を避けること。 使用中は飲食及び喫煙を禁止する。 個人保護については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照する。 散布液の調製、保管、散布の際はプラスチック、プラスチック貼りスチール、ステンレスもしくはガラスファイバー製の容器を使用すること。
接触回避	アルミニウム 軟鋼 鉄

保管

安全な保管条件	特別な保管条件は必要ない。 容器を密閉して、乾燥した、涼しく換気の良い場所で保管する。 子供の手の届かないように保管すること。 食品、飲料水、動物の餌から離しておく。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度

成分	CAS 番号	指標	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度	出典
ジクワットジブロミド	85-00-7	TWA (吸入濃度)	0.5 mg/m^3 (吸入性粉じん)	ACGIH
		TWA (呼吸濃度)	0.1 mg/m^3 (呼吸性粉じん)	ACGIH

設備対策

ばく露が避けられない場合、密閉および/または隔離することが、技術的に最も確実な防御手段となる 。
保護対策の範囲は、使用時のリスクによって異なる。
空気濃度を管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度値以下に保つ。
必要に応じて、追加の労働衛生に関連する情報を求める。

保護具

呼吸用保護具

作業者が暴露限界値を上回る濃度にさらされる場合には、適切な認定を受けたマスクを着用する必要がある。
適切な呼吸用保護具:
ハーフ顔面マスク付きの呼吸器
マスク用のフィルターのクラスは、物質を扱っているときに発生する可能性のある最高予測汚染物質濃度(ガス／蒸気／エアゾール／粒子)に適したものでなければならない。

手の保護具

材質: ニトリルゴム
破過時間: ＞480min
手袋の厚さ: 0.5mm
備考: 保護手袋を着用すること。 適切な手袋を選ぶには、素材のみでなく、その他の品質に関する特徴を考慮する。製造者によっても違うので、その点にも注意する。 手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。 破過時間は、素材の特徴の中でも、手袋の厚さと種類によって決定されるので、その時々に測定されなければならない。 手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候がわずかにでもある場合は、手袋を破棄し取り替えなければならない。

眼の保護具

製品と眼が不慮に接触する可能性を払拭できない状況では常時ゴーグルを着用してください。
密着性の高い安全ゴーグル
フェイスシールド

皮膚及び身体の保護具

適した身体防具を選ぶには、そのタイプ、危険物質の濃度や量そして特定の作業場を考慮する。
汚染された衣服は洗浄してから再使用する。
不浸透性衣服を必要に応じて着用する。

保護対策

個人用保護具ではなく専門の保護具の使用を優先すること。
個人用保護具の選定については専門家のアドバイスを求める。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	暗褐色
臭い	無臭
臭いのしきい(閾)値	データなし
融点/凝固点	データなし
沸点, 初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性(固体、気体)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発範囲の上限 / 可燃上限値	データなし
爆発範囲の下限 / 可燃下限値	データなし
引火点	引火しない。 方法: ペンスキーマルテンス密閉式引火点試験
分解温度	データなし
pH	4 - 8 含有量: 1 %w/v
蒸発速度	データなし
自然発火温度	> 650 ℃
粘度	
粘度(粘性率)	1.61 mPa,s (40 ℃) 2.07 mPa,s (20 ℃)
動粘度(動粘性率)	データなし
溶解度	データなし
水溶性	データなし
溶媒に対する溶解性	データなし
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度	1.174 g/cm^3
相対ガス密度	データなし
爆発特性	爆発性なし。
酸化特性	本製品は酸化性物質としては分類されない。
表面張力	40.1 mN/m, 20 ℃
金属腐食速度	金属腐食性物質
粒子サイズ	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	合理的に予想できるものは、なにもない。

	危険有害反応可能性を参照。
化学的安定性	通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	金属と接触し腐食させる。
避けるべき条件	指示通り使用すれば分解しない。
混触危険物質	アルミニウム 軟鋼 鉄
危険有害な分解生成物	危険な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報	飲み込んだ場合 吸入した場合 皮膚に付着した場合 眼に入った場合

急性毒性

飲み込むと有害。

吸入すると有毒。

製品

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, メス): 約 550 mg/kg
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, オスおよびメス): 0.64 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト この物質または混合物は急性の吸入毒性はない。 スプレー等の霧が鼻粘膜に付着することにより、鼻血や喉の痛みが生じる場合がある。
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 5,000 mg/kg

成分

ジクワットジブロミド

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, メス): 399.75 mg/kg ヒトに対する致死量はジクワット約4～6g(約60mg/kgに相当)である。 吐き気、嘔吐、腹痛を引き起こすことがある。腎不全が起こり、重篤時には循環不全が起こる。
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, オス): 0.226 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 792 mg/kg この物質または混合物は急性の皮膚毒性はない。

皮膚腐食性/刺激性

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

製品

種	ウサギ
結果	皮膚への刺激性なし。

ジクワットジブロミド

種	ウサギ
結果	皮膚に刺激性。 爪の変色、ひび割れ喪失を引き起こす可能性がある。 その後は遅れることなく普通にのびる。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

製品

種	ウサギ
結果	眼への刺激性なし。

成分

ジクワットジブロミド

種	ウサギ
結果	眼への刺激。 本剤には遅発性の眼刺激があり、角膜や結膜上皮の潰瘍形成を引き起こす可能性がある。治癒は遅いかもしれないが、表面的な損傷のため、適切な治療によって重度の場合でも完治する。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

製品

種	モルモット
結果	皮膚感作性でない。

成分

ジクワットジブロミド

種	モルモット
結果	皮膚に触れると感作を起すことがある。

呼吸器感作性

データが不足しているので分類されていない。

生殖細胞変異原性

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

成分

ジクワットジブロミド	動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。

発がん性

データが不足しているので分類されていない。

成分

ジクワットジブロミド	動物検査において発がん性の証拠はない。

生殖毒性

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

成分

ジクワットジブロミド

種	ラット
アセスメント	2 世代繁殖毒性試験で同腹児数の減少、生殖発生毒性試験で肝臓・腎臓に肉眼的異常を認めた胎児の頻度増加がいずれも親動物の一般毒性用量でみられたことから、区分 2 とした。

特定標的臓器毒性物質(単回ばく露)

呼吸器への刺激のおそれ。

臓器 (中枢神経系, 腎臓) の障害。

成分

ジクワットジブロミド	実験動物への長期経口投与により、下痢、立毛、尿失禁、爪先歩行、円背位および行動抑制が認められた。 また、致死量の経口摂取後 24 時間はあまり症状がみられないが、その後、嗜眠、呼吸困難、体重減少、衰弱を起こして投与後 2～14 日で死亡するとの報告がある。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

長期にわたる、又は反復暴露による臓器 (呼吸器, 眼) の障害。

長期にわたる、又は反復ばく露により臓器 (消化管) の障害のおそれ。

成分

ジクワットジブロミド

標的臓器	呼吸器
種	ラット
アセスメント	吸入毒性試験において多巣性慢性間質肺炎、肺の発赤等、肺の絶対・相対重量増加が報告された。
標的臓器	眼
種	ラット
アセスメント	長期経口投与により、眼への影響(白内障、水晶体の混濁)が報告された。
標的臓器	消化管、眼
種	イヌ
アセスメント	反復経口投与毒性試験においても白内障、体重増加の抑制、腎臓の絶対・相対重量の増加、大腸炎が認められている。

誤えん有害性

データが不足しているので分類されていない。

12. 環境影響情報

生態毒性

製品

魚毒性	LC50 (Cyprinus carpio (コイ)): > 1,000 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 27.9 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類／水生植物に対する毒性	ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.153 mg/l

	ばく露時間: 72 h 最大無影響濃度 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.022 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 72 h ErC50 (Lemna gibba G3 (レムナ・ギバ G3)): 0.0152 mg/l ばく露時間: 7 d 最大無影響濃度 (Lemna gibba G3 (レムナ・ギバ G3)): 0.00325 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 7 d

<u>成分</u>

ジクワットジブロミド

魚毒性	LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 計算値 10.46 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 計算値 2.49 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類／水生植物に対する毒性	ErC50 (Navicula pelliculosa (淡水珪藻)): 計算値 0.001148 mg/l ばく露時間: 96 h 最大無影響濃度 (Navicula pelliculosa (淡水珪藻)): 計算値 0.0005945 mg/l ばく露時間: 96 h
M-ファクター (水生環境有害性短期(急性))	100
魚毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ)): 計算値 0.04726 mg/l ばく露時間: 34 d
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 計算値 0.0504 mg/l ばく露時間: 21 d
M-ファクター (水生環境有害性長期(慢性))	100

残留性・分解性

<u>成分</u>

ジクワットジブロミド

水中での安定性	分解半減期: > 30 d 水中において難分解性。

生体蓄積性

<u>成分</u>

ジクワットジブロミド

生体蓄積性	低い生態蓄積性。

土壌中の移動性

<u>成分</u>

ジクワットジブロミド

環境中の分布	移動しない。
土中での安定性	消失時間: 11 - 41 yr 消失割合: 50 % (DT50) 地中において難分解性。

オゾン層への有害性

非該当

他の有害影響

成分
ジクワットジブロミド
PBT および vPvB の評価結果　物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

残余廃棄物	薬剤または使用済み容器で池、水路、溝を汚染しないこと。 廃棄物を下水へ排出してはならない。 可能ならば、廃棄や焼却処理より再利用する方が好ましい。 リサイクルできない場合は、地域の規制に従って処分する。
汚染容器及び包装	残りの内容物を空にすること。 容器は 3 回すすぐ。 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。 空の容器は再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送(UNRTDG)

国連番号	UN1760
国連輸送名	CORROSIVE LIQUID, N.O.S. (DIQUAT DIBROMIDE)
国連分類	8
容器等級	III
環境有害性	該当

航空輸送(IATA-DGR)

国連番号	UN 1760
国連輸送名	Corrosive liquid, n.o.s. (DIQUAT DIBROMIDE)
国連分類	8
容器等級	III
ラベル (Labels)	Corrosive
梱包指示(貨物機) (Packing instruction (cargo air-craft))	856
梱包指示(旅客機) (Packing instruction (cargo air-craft))	852

海上輸送(IMDG-Code)

国連番号	UN 1760
国連輸送名	CORROSIVE LIQUID, N.O.S. (DIQUAT DIBROMIDE)
国連分類	8
容器等級	III
ラベル	8
EmS コード (EmS Code)	F-A, S-B

海洋汚染物質　　該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）

供給された状態の製品には非該当

国内規制

特定の国内規制については、「15.適用法令」を参照。

緊急時応急措置指針番号　154

特別の安全対策

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいている。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性がある。

15. 適用法令

関連法規

農薬取締法

登録番号第 22143 号

消防法

危険物、指定可燃物に該当しない。

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）

非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第57条の2（則 34 条の 2 別表2

化学名	含有量(%)	備考
1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジブロミド （別名ジクアトジブロミド）	32	-

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第57条（則 30 別表2）

化学名	備考
1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジブロミド	-

(別名ジクアトジブロミド)	

皮膚等障害化学物質 (労働安全衛生規則第 594 条の2)

化学名
1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジブロミド (別名ジクアトジブロミド)

がん原性物質(労働安全衛生規則第 577 条の2)

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一 (危険物)

非該当

毒物及び劇物取締法

劇物

化学名	政令番号
2, 2'ージピリジリウムー1, 1'ーエチレンジブロミドを含有する製剤	47

化学物質排出把握管理促進法

第1 種指定化学物質

化学名	管理番号	含有量 (%)
1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジブロミド (別名ジクアトジブロミド)	63	32

高圧ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1: 腐食性物質

航空法

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: 腐食性物質

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送	有害液体物質には該当しない。
個品輸送	海洋汚染物質

水質汚濁防止法

指定物質(法第2条4項、施行令第3条の3)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物 （化管法第一種指定化学物質を含む ）

16. その他の情報

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含む。2 項には政府による GHS 分類結果が反映されているため、11 項及び 12 項の試験結果と合致しない場合がある。
JIS Z 7252, JIS Z 7253 2025 に準拠

記載内容の取扱い

製品安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考資料として、当該化学製品を取扱う事業者に提供されるものであって、安全を保証するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。
この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品（当該製品）に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の目的への適合性を判断し、この安全データシートや製品ラベルに記載のものを含め、実状に応じたあらゆる適切な予備的措置を講じてください。
当社のいかなる保証違反においての責任は、製品の交換又は購入額の払い戻しに限られます。当該製品を取扱う事業者が、上記の適切な予備的措置を講じなかった場合、シンジェンタは責任を負いません。

その他の略語全文

ACGIH	米国。ACGIH 限界閾値(TLV)
ACGIH / TWA	8 時間、時間加重平均
日本産業衛生学会(許容濃度) / OEL-M	許容濃度

改訂履歴

改訂年月	項目	改訂箇所および内容	改訂理由
2026 年 4 月（第 17 版）	1 項	使用上の制限追加	安衛法改正による見直し
		急性中毒の緊急問い合わせ先	Syngenta による記載方法の見直し
	2 項	GHS 分類追加 生殖毒性 区分 2,特定標的臓器毒性（単回ばく露）区分 1（中枢神経系，腎臓）,特定標的臓器毒性（反復ばく露）区分 2（消化管）	NITE の GHS 区分の見直し
		危険有害性情報 追加（H335,H361,H372）	
		安全対策 追加(P203, P273,P280) 削除(P201,P202)	JIS 改正による見直し
		応急措置 追加(P316,P317,P318,P319,P321,P390) 削除(P311,P312, P314,P308+P313)	
		保管 追加(P406)	

	3 項	組成記載変更	Syngenta global データ改訂による見直し
	4 項	急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状、医療関係者への情報　追加	Syngenta global データ改訂による見直し
	5 項	有害燃焼副産物追加	Syngenta global データ改訂による見直し
	7 項	安全取扱注意事項記載内容追加	Syngenta global データ改訂による見直し
	9 項	物性データ追加	Syngenta global データ改訂による見直し
	11 項	成分データ追加（ジクアトジブロミド）	Syngenta global データ改訂による見直し
	12 項	成分データ追加（ジクアトジブロミド）	Syngenta global データ改訂による見直し
	14 項	緊急時応急措置指針番号追加	Syngenta global データ改訂による見直し
	15 項	名称等を通知/表示すべき危険物及び有害物追加（ジクアトジブロミド） 皮膚等障害化学物質追加（ジクアトジブロミド）	安衛法改正による見直し
	16 項	その他の情報文言追加	JIS Z 7252, JIS Z 7253 2025 に準拠